

環境コミュニケーション大賞（環境報告書部門） 地球温暖化対策報告大賞 採点表（平成 29 年版）

温室効果ガスの削減、その他気候変動対策について、斬新かつ具体的な数値目標を示して取り組みを進める企業であって、その取り組みを社会に広く伝える工夫を行っている最も優れた報告書を、特に下記の視点等で選考する。

① 2050 年に向けた長期ビジョン・目標がある MAX 20

「3」	理念や社長の緒言だけでなく明確に目標とされ、それに向けての道筋戦略の記述もある、等。
「2」	長期ビジョンと緒言でのコミットメントがある、等
「1」	ビジョンらしきものが読み取れる、等
「0」	記載なし

② 2030 年から前後 5 年ほどの間の一定の年度を指定し、中期ビジョン・達成目標を掲げている。 MAX 15

「3」	理念や社長の緒言だけでなく明確に目標とされそれに向けての道筋戦略の記述もある、等。
「2」	ビジョンと緒言でのコミットメントがある、等
「1」	ビジョンらしきものが読み取れる、等
「0」	記載なし

③ 既存テクノロジーと新しいテクノロジーを組み合わせるなどして、創意工夫・イノベーションによる温室効果ガスの排出削減と、新しいビジネス、生活モデルを提唱し、実績を上げつつある。 MAX 15

「3」	製品・サービス開発方針と目標・実績が明確に記述されている、等
「2」	方向性と目標はしめしているが極めて部分的である、等
「1」	方向性を打ち出しているのみ、等
「0」	記載なし

④ 少なくとも 3 年以上の期間を設定して大幅な GHGs 削減目標を掲げている。 MAX 10

「3」	大胆な目標が明確に掲げられ、それに向けての具体的な道筋と戦略の記述もある、等。
「2」	緒言でのコミットメントと目標とがあり、どう達成するか戦略も記載されている、等
「1」	目標はあるが達成の道筋が必ずしも明確には示されていない、等
「0」	記載なし

⑤ 低炭素社会に向けた提言をしている。 MAX 10

「3」	グローバルな脱炭素宣言グループに参加してる、または具体的な提言先と提言内容を報告書等に記載している、等。
「2」	国や自治体、業界団体の低炭素社会に関する検討会などに参画し、取組への協力を行っている。
「1」	一般的な脱炭素・低炭素提言の紹介をしている。
「0」	記載なし

⑥ 製品・サービスのサプライチェーン及びライフサイクルを通じ、連結ベースで過去、大幅な GHGs 削減を実現している。 MAX 10

「3」	基準年を設定し、連結ベースを超えて、Scope3 のバリューチェーン全体の取組が明確に説明されている、等
「2」	連結ベースで、概ね国内外を網羅して上記に準じている、等
「1」	主要な事業所等で上記記述、等
「0」	記載なし

⑦ 気候変動への適応に関して、先進的・先駆的な取組を展開している。 MAX 10

「3」	方針が示されており、取組を開始している、等
「2」	方針は作成しているが、取組には至っていない、等
「1」	方針策定について触れられている、等
「0」	記載なし

⑧ 総合評価 MAX 10

以上